

愛媛県におけるスクール・ミッション及びスクール・ポリシーについて

愛媛県教育委員会事務局指導部高校教育課

【スクール・ミッションについて】

本県では、令和4年度末に、県立学校振興計画を策定することとしている。したがって、令和4年度中に、振興計画と並行して、スクール・ミッションに関する準備も進め、令和5年度上半期以降の公表を目指す予定である。再定義の方法等については、未定である。

【スクール・ポリシーについて】

教育委員会がスクール・ミッションを再定義した後、各校は、スクール・ポリシーの策定委員会等を設置し、検討に入る予定である。また、教育委員会は、適宜研修等を実施するなどして各校のサポートを行い、令和5年度中に、全ての県立学校で、スクール・ポリシーの策定・公表を目指す予定である。

愛媛県における高等学校の特色化・魅力化に向けた方策

愛媛県教育委員会事務局指導部高校教育課

1 はじめに

愛媛県では、令和2年度に、「第2期愛媛県版まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定している。次代を担う人材や地域を支える担い手の確保という目標を達成するために、教育分野が担う役割が大きくなっており、県教育委員会においても、平成31年3月策定の「愛媛県教育振興に関する大綱」に基づき、市町や関係団体と連携して、教育、学術、文化、スポーツの振興に取り組んでいるところである。

大綱では、「学校・家庭・地域が連携した教育の推進」「未来を拓く子どもたちの育成」など、六つの教育振興方針を打ち出している。これらを受け、県立学校においては、「魅力ある学校づくり推進事業」や「高等学校地域協働推進事業」等の事業を実施し、地域課題の解決や地域の魅力発信に向け、主体的・協働的に行動できる生徒を育成している。また、生徒の学びをより一層充実させるため、ICT機器の整備と、ICTを活用した授業改善に取り組んでいる。

2 主な取組の概要

(1) 魅力ある学校づくりの推進

少子化やグローバル化など、県立高校等を取り巻く教育環境が急激に変化する中、地域活性化の核となる魅力ある県立学校づくりが急務となっている一方、少子化等の影響により、中学校卒業生数は、今後も減少することが見込まれ、複数の小規模校において、分校化や募集停止が危惧されている。

このような中、時代を担う高校生が誇りを持てる、地域活性化の核となる学校づくりを積極的に推進するため、令和2年度から「魅力ある学校づくり推進事業」を実施し、県立高等学校及び中等教育学校を対象とした、「県立学校振興計画の策定」及び「県立学校の魅力化推進」に取り組んでいる。県立学校振興計画は、令和4年度までの3年をかけて策定し、令和5年度からのスタートを目指すこととしている。

「県立学校振興計画の策定」
計画の策定に当たっては、県内8地区に地域協議会を設置し、地域住民や市長・町長等から意見や課題等を丁寧に聴取した上で、学識経験者や産業界、学校関係者等で構成する計画検討委員会において、学校の適正規模や基準の柔軟な設定、特色ある学科の設置や改編、近隣校による統合やキャンパス制の導入、島しょ部などの小規模校の存続等の県立高校等の在り方について協議している。時代を担う高校生が誇りを持てる、地域活性化の核となる学校づくりを積極的に推進する。
「県立学校の魅力化推進」
昨年度は、本校・分校連携推進モデル校において、ICTを活用した遠隔授業の実施や学校間バスの運行による生徒交流の在り方について研究した。今年度からは、同モデル校に加え、小規模校や職業学科校等でネットワークを形成し、生徒交流や共同研究の在り方について検証する。

(2) 高等学校と地域との協働を推進

高等学校が、自治体、高等教育機関、産業界等と協働してコンソーシアムを構築し、地域課題の解決等の探究的な学びを実現する取組を推進することで、地域活性化の核としての高等学校の機能強化を図ることを目的として、令和元年度から「高等学校地域協働推進事業」を実施しているところである。

本事業は、文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」において、地域協働推進校の指定を受けた三崎高校（地域魅力化型）、松山東高校（グローバル型）、小松高校（プロフェッショナル型）が、地域課題解決やカリキュラム開発などの研究を実施している。また、事業特例校及びアソシエイト校に7校が指定され、同様の取組を実施している。

(3) 全国募集の促進

他都道府県出身の生徒を本県の県立高校に受け入れるための全国募集は、教育や地域活性化に係る効果が高く、県内生徒にとっては「多様な価値観、広い視野、コミュニケーション力の獲得」、県外生徒にとっては「愛媛の自然豊かな環境のもと、一人一人を大切に教育で成長」、高校にとっては「生徒数増による教育活動の充実、部活動の活性化」、地域にとっては「地域活動の担い手の増、経済効果、将来的な移住・定住」などの効果が期待できる。

全国募集は、平成31年度入試から始まり、同年度の募集校は8校、入学者は11人であったが、令和2年度入試では、13校、45人、3年度入試では、14校、49人となり、着実に規模を拡大してきた。

しかし、全国的な人口減少の中、他県でも本県同様に全国募集に取り組む動きが高まっていることもあり、本県県立高校の魅力をさらにアピールするため、令和3年度から、「えひめ高等学校全国募集促進事業」を実施しているところである。全国募集実施校をサポートするため、SNS等を使った高校生によるPR広告配信を開始したほか、地元自治体と一体的な取組ができていた8校を対象に、学校説明会や見学バスツアーに参加する県外生への交通費助成を行っている。

(4) 職業学科における人材育成

将来、地域産業を支える専門的な職業人を育成することを目指し、地域や産業界と連携した実践的な取組を通して、生徒が各専門分野の卓越した技術・技能を身に付けるとともに、県内企業に対する理解を深めるため、令和2年度から、「えひめ次世代マイスター育成事業」を実施しているところである。

農業科 (12校)	農業生産技術と経営感覚を兼ね備えた人材を育成するため、GAP教育を推進する。
工業科 (6校)	企業技術者等による実技指導や、地元企業での継続的な就業体験を通して、生徒の実践力の向上や勤労観の育成を図る。
商業科 (9校)	地域の魅力を発信する観光ツアープランの作成、地域の特産品を活用した商品開発を通して、高度な会計知識の習得や、プランニング能力・マネジメント能力の育成に取り組むほか、高度資格取得に向けた個別指導を充実する。
水産科 (1校)	県内の篤漁家や水産食品会社の方による実習指導を通して、プロの技術を学ばせるほか、地域企業等と連携し、地域の水産物を活用した6次産業化に取り組む。

(5) サイクリングを通じた地域の魅力の発信

サイクリングを通して、自転車の安全利用や高校生の健全育成を推進するとともに、地域の自然環境や文化についての学習を通して、地域に愛着をもち、地域の魅力を発信できる人材を育成することを目的として、令和元年度から「地域の魅力発信高校生サイクリング推進事業」を実施しているところである。県内の18校にサイクリング用自転車やメンテナンスキットを配備し、地域の自転車店との連携による「自転車技術指導講習」や、サイクリングロードの清掃、サイクリストのおもてなし、サイクリングイベント企画・開催、地域の魅力を発信するマップの作成・配布等の活動を行っている。

3 今後に向けて

今後とも、生徒が、地域課題の解決に向け、主体的・協働的に取り組んでいけるよう、魅力ある学校づくり、地域との連携、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善等を推進し、知・徳・体のバランスが取れ、たくましく生きる力を身に付けた生徒の育成に努めていきたい。